

(平成27年 9月分)

種 類	市況の概況
(水産物部の動向) 水 産 物 全 般	9月の総入荷量は、前年に比べると鮮魚が台風など荒天の影響で入荷減少し、冷凍魚、加工水産物も価格上昇等により入荷減少となったことから、全体として11%の減少となった。価格については、鮮魚が入荷減少により全般に値上がりし、冷凍魚、加工水産物も原材料の値上がりや、為替等の影響で値上がりした結果、水産物全般の取扱金額は前年並みとなった。
(区分別の動向) 鮮 魚	9月の鮮魚の総入荷量は、前年同月と比べ12%下回ったため、平均単価は16%上回った。 品目別には、しずが倍増、あかえび、さわら(さごし含む)が入荷40%増と前年を大きく上回ったが、多くの魚種で入荷量は前年を下回り、特にさんま、はまち(天然)、たらは大きく減少した。 さんまの9月下旬までの漁は、漁場が遠方に形成されて日数がかかり、水揚げも少ないうえ、魚体も小型中心となり前年の6割程度の水揚げとなった。これから10月に旬を迎える魚では、さばを筆頭に、かます、ちだい等がある。また秋さけ漁も順調な出足となっている。11月6日には日本海カニ漁が解禁となり、冬物商材が美味しくなる季節目前である。
冷 凍 魚	9月の冷凍魚の総入荷量は、前年同月と比べ7%下回ったことや、為替の影響などから、平均単価は5%上回った。 品目別には、冷さけは主体のチリ産の銀さけが、前年同月と比べ10%程度価格下げて安定しているが、入荷は減少となり、冷さけ全体で9%下回った。冷さばも主体のノルウェー産が価格を下けているが、京都向けの大型サイズが少なく、国内産より高値のため入荷減少となり、冷さば全体で27%下回った。冷えびは価格を下げたため消費回復してきており、入荷量は16%上回った。 冷するめいかは、今年も漁獲は低調で型も小型が多く、来年の漁期まで高値が続くと思われる。輸入魚は為替の大きな変動がなければ、今の相場が続くと思われる。

加 工 水 産 物	9月の加工水産物の総入荷量は、前年同月と比べ9％下回ったことや、加工原材料が全般に値上がり傾向にあることから、平均単価は11％上回った。 品目別には、さんまが漁獲不振と、サイズの小型化により、京都に向けた大型の塩さんまが少なく、入荷が14％下回ったのに対し、漁獲サイズに合う開干さんまは38％上回った。干水かれいは底引き網漁解禁で、値下がりして、入荷は23％上回った。その他値上がりした塩さけ、塩さば、開干あじ、ちりめん等の入荷は下回った。 10月は秋祭りが最盛期を迎え、塩さばの取扱いが年間を通じて最も多い季節となり、11月に入れば、6日にかに漁が解禁となり、10日には棒だらの入札が行われ、年末商戦の幕開けとなります。
------------------	--

※生鮮魚：鮮魚，貝類，淡水魚

※冷凍魚：冷凍魚（鯨肉を除く）

品目	市況の概要
(鮮魚主要品目の動向)	
ま あ じ	京都，静岡で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ7 % 下回ったが，小型サイズが多く価格は前年並となった。
ま い わ し	愛知，神奈川で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ2 4 % 下回ったため，価格は5 % 上回った。
さ ば	石川，兵庫で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ6 % 下回ったため，価格は5 % 上回った。
す る め い か	北海道，岩手で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ2 4 % 下回ったため，価格は3 % 上回った。
太 物	総入荷量は前年同月と比べ4 % 下回ったため，価格は9 % 上回った。
よ こ わ	北海道，青森で水揚げされたものの主体の入荷で，資源保護のため漁獲自主規制しており，入荷量は前年同月と比べ2 2 % 下回ったため，価格は2 1 % 上回った。
さ わ ら	鳥取，徳島で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ4 2 % 上回ったため，価格は1 3 % 下回った。

品目	市況の概要
(冷凍魚主要品目の動向)	
冷 さ ば	入荷量は前年同月と比べ２７％下回ったが，ノルウェー産の値下がりによる影響を受け，価格は８％下回った。
冷 す る め い か	入荷量は前年同月と比べ１５％下回ったことや，前年の漁獲不振で在庫が少ない状態が続いており，また今年の８月から９月の漁獲も低調であったことから，価格は６％上回った。
(加工水産物主要品目の動向)	
塩 ま す	入荷量は前年同月と比べ２１％下回ったため，価格は７％上回った。
塩 さ ん ま	入荷量は前年同月と比べ２４％下回ったものの，漁獲不振で小型サイズ主体の水揚げとなり，平均価格は６％下回った。